

会 議 録

会議の名称	市民参加推進会議（第35回）		
事務局	企画財政部企画政策課企画政策係		
開催日時	平成25年12月20日(金)午後6時03分～午後8時07分		
開催場所	前原暫定集会施設1階 A会議室		
出席者	委員長	西尾 隆	委員
	副委員長	浅野 智彦	委員
	委員	赤羽 里家	委員
		坂爪 智子	委員
		福井 高雄	委員
		五島 宏	委員
		伊藤 茂男	委員
		古畑 昭郎	委員
		杉本 早苗	委員
		川口 亜子	委員
		田中 留美子	委員
欠席者	委員	河野 律子	委員
事務局	企画政策課長	水落 俊也	
	企画政策課長補佐	竹田 怜史	
	企画政策課主任	工藤 真矢	
	企画政策課副主査	津田 理恵	
傍聴の可否	㊟	一部不可	不可
傍聴者数	3人		
<p>【会議次第】</p> <p>1 開会</p> <p>2 市民参加条例運用状況等について</p> <p>(1) 第5期市民参加推進会議の議題について</p> <p>(2) 次回推進会議の開催日について</p> <p>3 閉会</p>			
<p>【会議結果】</p> <p>1 開 会</p> <p>2 市民参加条例運用状況等について</p> <p>(1) 第5期市民参加推進会議の議題について</p> <p>○各委員からの議題提案（資料1参照）</p> <p>（各委員の提案は資料1のとおり。下記は資料1に掲載していないが、当日提案された意見。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「のびゆくこどもプラン 小金井」（小金井市次世代育成支援後期行動計画）に関するニーズ調査と長期総合計画策定のための市民意向調査の結果が出た際、概略を報告してほしい。市民のニーズを確認したい。 ・会議の名称が固すぎるのでは。漢字だけでなく、やわらかい、わかりやすい副題等をつけたら参加しやすい。 ・市内の人材は豊富と聞くが、人材の情報を把握しているNPO等があれば、その団体から情報収集することができる。 ・協働に関する専門の窓口について、市内の人材を一括募 			<p>全文記録ページ</p> <p>P1</p> <p>P3</p> <p>P6</p> <p>P13</p> <p>P13</p>

<p>集しておいて、必要な時に連絡できるとよい。</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働の推進に当たって専門の担当部署を設置するという話は市民協働のあり方等検討委員会の提言と重複するので、まずはそちらの動向等を注目してほしい。 ・協働についての相談の振り分けや、質問の回答、情報の集約を一つの窓口で行うと便利である。その窓口は行政の外部にあってもよいかもしれない。 ・大きく2つに分けると、今期の目玉となる議題とルーティンワークがある。ルーティンワークとしては、公募委員が置かれていない審議会等の状況確認や、意見・提案シートの普及状況、公募委員の選考方法についてがある。これらを定期的に報告してほしい。本日は今期の目玉となる議題を選ぶかたちになる。 ・伊藤委員の提案について、49の審議会のうち21に公募委員を置いていない理由を調査してほしい。 ・若者が参加したくなるイベントについてワーキンググループでアイデアを出し合い、実際にイベントを実施するとよい。 ・具体的なイシュー（争点）があると若者は参加しやすい。 ・多くの若者は仕事を持っているので、夜のほうが参加しやすい。仕事の有無や開催時間を考慮することが重要である。 ・委員からの提案の一覧を見ると、若者についての提案が多いので、若者の市民参加を今期の議題の目玉とするとよい。 ・子育て世代は学校給食や放射能の問題等、イシューが見つかりやすい。10代～20代の若者についてのイシューがあまりないようなら、子育て世代から始めるとよい。 ・若者はメール等の新しい伝達手段を多く利用している。市の情報を取得しやすくするため、市のホームページへのアクセスのしやすさも検証してほしい。 <p>【決定事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルーティンワークとして市民参加条例の適正な運用状況について、定期的に報告を求め、意見を言う。今期の目玉となる議題として、若い世代の市民参加についての検討を進める。 <p>○次回のヒアリングについて</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何をどう聞きとるかのフォーマットを決めてから、各委員が身近な若者に聞き取った結果を持ち寄って議論した方が時間の節約になる。 ・何を誰に聞くかをまずは固める必要がある。例えば、次回の会議ではその調査の設計について議論をして、ヒアリングは、その次の会議で行うか、あるいは中間でワー 	<p>P16</p> <p>P16~17</p> <p>P18</p> <p>P19</p> <p>P20</p> <p>P20</p> <p>P21</p> <p>P21~22</p> <p>P22~23</p> <p>P23</p> <p>P25</p> <p>P25</p> <p>P26</p>
--	---

<p>キンググループとしてヒアリングを行うかといった、いろいろな方法がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10代から30代までの若者全部というよりは、子育て世代の方が話を聞きやすいと思う。そういう世代の関係のハブになっているような方（例えば子育て支援の団体の方）に話を聞くとよいと思う。 ・ 最近、市とNPO等が協働して異世代交流の場をつくっていくという試みが増えている。小金井市でもそのような事例があれば、ヒアリングすることを考えたい。 ・ 男女平等推進審議会と青少年問題協議会で市民参加について言われていることがあれば、確認したい。 <p>【決定事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回は、ヒアリングについて、聞く相手や内容、方法等のアイデアを各委員が持ち寄り、議論する。また、議論の参考とするため、事務局が近隣市の異世代交流事例を調査する。 <p>○意見・提案シートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回会議で提出された意見・提案シートの内容について議論したいという意見があったため、次回会議で議論する。今後、委員が意見・提案シートの内容について議論したい場合は、事前に事務局に連絡し、その後の会議で議論する。 <p>(2) 次回推進会議の開催日について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2月14日午後6時30分から開催することとなった。 <p>3 閉会</p>	<p>P26</p> <p>P26</p> <p>P26</p> <p>P28</p> <p>P27</p> <p>P28</p>
<p>【提出資料】</p> <p>1 第5期市民参加推進会議議題 提案メモ一覧【事前配布】</p> <p>2-1 意見・提案シート【事前配布】</p> <p>2-2 意見・提案シート【事前配布】</p>	

第35回小金井市市民参加推進会議

日 時 平成25年12月20日（金）午後6時03分～午後8時07分

場 所 前原暫定集会施設1階 A会議室

出席委員 11人

委員長 西 尾 隆 委員

副委員長 浅 野 智 彦 委員

委 員 赤 羽 里 家 委員 古 畑 昭 郎 委員

坂 爪 智 子 委員 杉 本 早 苗 委員

福 井 高 雄 委員 川 口 亜 子 委員

五 島 宏 委員 田 中 留美子 委員

伊 藤 茂 男 委員

欠席委員 河 野 律 子 委員

事務局職員

企画政策課長 水 落 俊 也

企画政策課長補佐 竹 田 怜 史

企画政策課主任 工 藤 真 矢

企画政策課副主事 津 田 理 恵

傍 聴 者 3人

（午後6時03分開会）

◎西尾委員長 皆さん、こんばんは。今回で35回目になりますが、市民参加推進会議を始めたいと思います。

今日は河野委員から欠席の連絡が入っており、それ以外の方は皆さんそろっておられます。定足数につきましては、市民参加条例施行規則24条で半数をもって成立するため、12人中11人が出席ということで、この推進会議は成立するということになります。

今回から、2時間の審議の間に少しリフレッシュできるように休憩時間を設けることにいたしました。7時前後に5分ぐらいトイレ休憩を行います。

それでは、今日の配布資料につきまして、事務局のほうからご説明をお願いいたします。

◎事務局 資料の確認をさせていただきます。

事前に送付しましたものが3点ございます。資料1の「第5期市民参加推進会議議題 提案メモ一覧」は、委員の皆様からいただいた提案メモを一覧表にまとめたもので、A4で2枚のものです。資料2-1及び資料2-2は、前回の会議の傍聴者から提出されました意見・提案シートで、A4で4枚のものとA4で1枚のものです。この3点が事前に送付したものです。

また、本日机上に配布したものが4点ございます。

まず、本日の次第、次に前回の会議録で、皆様からいただいた校正を反映させたものです。

また、意見・提案シートについて、前回審議していただいた内容を反映させ、本日から傍聴席にお配りしていますので、委員の皆様にも参考に配布いたしました。さらに、委員の皆様の名簿をお配りしました。

送付もれ等ございませんでしょうか。

以上です。委員長、よろしく願いいたします。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。

前回、名簿がなかったということで、用意していただきました。例えば「あかばね」さんではなくて「あかはね」さん、「さかづめ」さんではなくて「さかつめ」さんとか、正確なことがこれでわかるようになります。ありがとうございます。

次第のほうを見ていただきますと、この第5期市民参加推進会議の議題について、これが議題ということになります。皆さんから事前に議題提案のメモをいただきまして、それが全部で4ページあります。前回、事務局のほうからも説明がありましたけれども、ちょっと事務的な言い方になりますが、議論する事項につきましては、次第のところには四角に囲んで、26条、27条が引用してあります。この範囲のことについて議論を進めていくということの確認を最初にさせていただきたいと思います。26条、27条を読めば、拡大解釈をすると、本当に何でも入ってくるのではないかなということですが、一応これが一つの枠ですので確認したいと思います。

今後の開催予定が、その枠の中でありまして、2月に1回、これは3月の議会が2月21日に始まるということで、その前に開くということでありまして、来年度の予定などが書いてありますが、今後の進行の回数とか日程とかを考えながら、全体の議論を進めていきたいと思っております。

それでは、今日の進め方としましては、皆さんからいただきました提案メモをそれぞれご説明いただきます。4ページ、項目が13ありますので、例えば一つで3分としますと40分ぐらいかかりますね。話せば長いかもしれませんが、目安としてはそれぐらいでご説明をしていただいて、どんなふうはこの会議を進めていくかの中身の議論に今日の後半あたりは入っていきたくて思っております。

なお、前回、意見・提案シートを傍聴の方からいただいておりまして、それは皆さんに配られているので目は通しております。例えば、会議の進め方で「浅野先生」と呼ぶよりも「〇〇さん」でいいんじゃないかという意見が届いています。私も先週土曜日のシンポジウムで、進行役だったので、最初に「さん」でいきましようと言ったんですが、なかなか守れませんね。つい、大学の教師に対して「先生」と呼んだりするもので、それを禁止するというわけにはいきませんし。適宜、そういうことは議論をしていきたいと思っております。

さまざまな意見をいただいて拝読しております。そういうことで、今日は委員の皆様から

いただいた議題を中心に進めていきたいというふうに思います。

提出順ではなくて、なぜか委員長からになっておりますが、私は最後に話すことにしまして、ちょうど、時計回りで浅野先生からご説明いただければと思います。よろしく願いいたします。

◎浅野副委員長 最初に説明させていただきます。

提案というか議題は三つあります。議題といいますか、こういうことをやってみたらどうかということです。

ざっと並べてしまったんですが、1点目は、若い人、子育て中の女性、それから小金井市外で働いている方、あと難しいですね、地域に人間関係を持っていない方、こういう方にヒアリングをしてみたらどうか。ここにお呼びしてもいいですし、我々がどこかに行ってもいいのですけれども、ヒアリングしてみてもいいということですか。

2点目が、これも言い方が難しいのですが、地域のいろいろなつながりをつくることを支援するNPOの集団、団体に対して、ヒアリングを行ってはどうかということですか。

3点目に、同じような取り組みをしてきた、あるいはしつづけるほかの市町村、例えば小平とか国分寺であるとか、そういった市町村の担当者の方をお願いしてヒアリングのようなことをしてはどうかということですか。これを出した後に、実はもう二つほど気になっているということか、こういうのはどうなのかと思うことがありまして、いいですか。

◎西尾委員長 どうぞ。

◎浅野副委員長 まだ載ってないのですが、一つは今進行中の小金井市の子育て調査というのがありますよね。あの内容、まだ精査してないんですけれども、その結果が出たときに、内容の概略をここでご報告いただけると、我々としてもありがたいかなと思うのが一つ。もう一つが、基本計画にかかわって、今年の5月、6月に市民意向調査をやられるというお話をこの間伺いまして、この意向調査も結果が出たところで、こちらで概略をご報告いただいて、どの辺にニーズがあるのかということをし我々で確認できたらいかなというふうに思っております。

その2点を追加させていただきます。

最初の3点なんですが、この3点の背景にあるのは、小金井市がかつて行った市民意向調査のデータを少し分析させていただく機会がありまして、その分析結果などから、こういう方々を対象に働きかけていったらいいんじゃないかなという結論になりまして、その対象の方々をざっと並べてあるわけです。

その中でも特に重要なのは、地域に知人が多いか少ないかということが、市民参加に積極的かどうかということと、ものすごく深くかかわっていますね。だから、中でも、例えば子育てネットワークの支援のネットワークをつくるとか、そういったネットワークをつくるお仕事をされているNPOの方々などにお話を伺えると、我々としても随分いろいろ手がかりが拾えるんじゃないかなというふうに思った次第です。

とりあえず以上です。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。

前期から継続なので、浅野先生はいろいろと知識がおありで、また発言していただければと思っています。

じゃあ、赤羽さん。

◎赤羽委員 私、本当によくわからないので、自分の中でこうしたらどうかなと思いつくことを2点ほど挙げさせていただきました。

まず一つは、委員募集方法の見直しですけれど、私は今回無作為抽出という形で選んでいただきましたが、それ以外に私が思いついたものをあげさせていただきます。市報の中に食育推進委員というものが出ていました。しかし、その仕事内容や活動内容は全くわかりませんでした。知り合いで食育に対してとても前向きに取りくまれている方がいて、この委員のことを話してみましたが、何をしているのか全くわからないので応募はできないという答えが返ってきました。いろいろな委員があると思いますが、各委員の具体的な活動内容を示すような資料があったらよいのではないかと思います。それから、活動状況を見学というか、実際に見に行かれる機会があったら、参加しようと思われる人も増えるのではないかと思います。

また、一度応募して、もしだめだった場合に、例えば自分の得意な分野、教育や食育とか栄養学のこととか、文化的なこととか、自分が得意としていることへの登録制のような形にしてはどうかと思います。関連する委員の募集があった時には連絡が行くようにすればいいでしょう。メールが使える方には、一斉にメールで送ると良いと思います。こうすることで参加する機会が増えると考えます。

2点目は、異世代間の交流の場についてです。私は、以前、町会の子供会の世話役をしました。その時に、子どもたちの活動で、年配の方との交流がほとんどないことに驚きました。異世代間の交流がもっとできると思っていましたが、子どもたちの世話をするのはほぼ母親たちでした。小金井に来てから、あまり上の世代の方と交流する機会がなかったと思います。交流をすることで、地域での助け合いの気持ちが生まれ、様々な世代の人が住みやすいまちになるのではないかと思います。以上です。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。

会議がどんなことをやっているのか、例えばこの会議の風景とか、出てみないとわからないでしょうね。

◎赤羽委員 わからないです。

◎西尾委員長 国の審議会って巨大な部屋でやってますよね。あれだと、ほとんどものを言う気が起こらないという気がしますけれども。

提案シートの中に動画配信なんてあって、それは難しいとは思いますが。今小金井で議会以外で何か会議の風景とかがわかるものってありますか。実は意外とわからないですよ。写真を載せてることがありますか。

◎事務局 新庁舎建設基本計画市民検討委員会の「委員会ニュース」に、会議の風景が載っていました。

◎西尾委員長 なるほど。別にこの風景が大事だというわけではないんですが、イメージとして、どんな所なんだろうかという疑問はあるかもしれないですね。大変建設的なご意見、どうもありがとうございました。

それでは古畑さん、お願いいたします。

◎古畑委員 一応、よくパブリックコメントというのが並べてあるんです。それはどういうふうに決定されたのかということ。公民館なんか置いてあるんで、そこにご意見をということになっているんですが、それはどういうふうな扱いになるのか。極端に、初めから結論はあるようなもので、そういうような感じなんです。市のアライヴづくりみたいな機能を果たしているんじゃないかというようなことなんで。長くなりますので簡単に言えば、もうちょっとそういうものに関与できるのにはどうしたらいいのか、一度検討してみたらどうでしょうかというのが提案の趣旨です。時間がかかりますので、それだけにしておきます。

◎西尾委員長 ここに書いていらっしゃるの、コメントがかなり固まった段階で、ほとんど政策の成立直前に。

◎古畑委員 いや、それはよくわかりませんが、どうですかということに、それに意見を書けというんだけど何か、さっき委員長が言いましたように、どこでやっているのか、そんな検討。要するに、もうちょっと見える化にしてほしいということですよ。

◎西尾委員長 昔は青天のへきれきのごとく、役所の結果がばんと決まったという時代が長く続いて、それではというので案の段階を示してというので、これも前進なんだろうと思うんです。でも、透明度をさらに上げるというのも可能なんだろうと思いますね。参加ということで、それが最終的な計画なり政策に、どんなふうに反映させるのか。

◎古畑委員 だから、少なくとも2回か3回ぐらいは、そういうものを出さないと。どぼんと結論だけ出て、ご意見はといっても、反映されたのか、取り上げたのか、それ自体がよくわからない。

◎伊藤委員 前回、お配りしている資料があると思うんですけれども、もしあれば見ていただけますか。資料6にパブリックコメントの実施状況調査という一覧表があると思います。確かに古畑委員がおっしゃるように、大体、素案ができて、それで市民の方にご意見を伺うということで、ほとんど修正しない場合が多いんですけれども。その表を見ていただきますと、24年度の場合は17件の施策等についてパブリックコメントを行って、意見が出された人数と件数が一覧表に載っています。それで一番右のところの一部修正という形で、市民の方々のご意見を参考にして、つくったものを一部修正している例もございますので、必ずしも、もう変えないんだということではないです。修正なしというののもかなり多いんですけれども、全く無駄だということではないと思います。

◎古畑委員 無駄ではないと思いますけどね。

◎伊藤委員 参考にしていればと。結構市民の方から、よい意見が出て、修正することもありますので。

◎古畑委員 ああ、そうですか。私の先入観かもしれませんが、まあ感じがしたことを申し上げたわけです。以上です。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。

改めて、1回目に配った資料、そういう問題意識から見ると、ものによっては件数の多いもの、ゼロ件、いろいろですね、こうやって見ますと。

◎古畑委員 やっぱり関心の高いものには意見が多いんですね。

◎伊藤委員 そうですね。

◎西尾委員長 それから、1人がたくさん出されることもあるんですね。

それでは、坂爪委員、よろしくお願いします。

◎坂爪委員 私は本当に全然何もわからない状態で、本当にとんちんかんなことを言うかもしれないんですけど。

私の世代だと、やっぱり父親とか母親の参加のことが一番強いというか、話せるかなと思って、この議題も父親・母親参加についてというふうに出しました。

浅野副委員長のおっしゃったことにもかぶってしまうかもしれないんですが、子育て中のお母さんだけではなく、お父さんがもっと参加しやすい場を設けたら、それでまた意見が広がるんじゃないかなと、ただ単純にその思いだけで、深い意見はないんですけども。

ちょっとこれは、母親、父親参加ではなくて、若い人の層にもかかわると思うんですが、この意見・提案シートとすごくかぶってしまっていてあれなんですけれども。名称が固すぎるのかなというのを私の周りでは言われていて、それはしょうがない。

◎西尾委員長 この会議の名称ですね。

◎坂爪委員 市民参加推進会議って、すごい大層なものだけど大丈夫なのと、すごい言われて。あなた、今、働いていないし、本当に大丈夫、やっていけるのって言われたので。

漢字って、一文字一文字で意味があってわかりやすいんですけども、副題ではないんですけど、もうちょっとやわらかい、わかりやすい感じでやったら、いろんな層の方、勉強された方もそうじゃない方も、とっつきやすいんじゃないかなと思ったのが1点。

私も前回、保育ありますよと言われてびっくりしたので、募集をかけたるときに、保育がある場合にはもうちょっと、保育があるよということを全面にアピールしてあげると、もっと参加しやすいんじゃないかなと。

あと、こういう会議室でやるとしても、もうちょっとフランクな感じでやると、きっとふらっと寄ってきてくれる人もいるんじゃないかなというのはちょっと思ったんです。実際問題、難しいとは思いますが。

育児中の人って、正直なことを言うと面倒くさいというのが、今、自分が育児していて、家のことでいっぱいなので、そんなことまでやってられないわという意見も多分あると

思うので、何かのついでに来て参加できれば、もしあるとすれば、もっといい意見も、いろんな意見が聞けて、幅が広がるんじゃないかなとちょっと思って出しました。

すみません、本当に申しわけないです。以上です。

◎西尾委員長 はい、どうもありがとうございます。まさに、そういう率直なご意見を伺うためにここに来ていただいたと思います。

今のことに関して、会議室の雰囲気とか、この後、それに関係するご提案ではないかなと思います。

では、杉本さん、よろしくお願いします。

◎杉本委員 私はここに書いてあるとおりに、前期推進会議2年をかけて提案まで市長に提言したことも、その後の状況を共有することと、あとそれを一歩進めるための状況把握と検証が必要だということを書きました。提案シートは、今、試行的にここでやってみたということで、市長から意見を述べられたものを1枚いただきましたけれども、やっぱり今後検討する課題というのも、市長のほうからも出ていますので、私たちの今後の検討次第、あるいはより深まった提言によって、また市長が一歩踏み込んだ回答をいただけることも、可能性がすごく大きいなというふうに思っています。

2番目に、傍聴提案シートはまだここだけで行われて、ほかの審議会にはまだ普及していないのかどうか。普及については、ほかの審議会はどう思っているのか。そういうようなことをやっぱり知りたいと思います。それはやっぱり調べていただくことかなと思いますし。調査することによって、ほかの審議会のメンバーの人たちも、この推進会議でこんなことをやっているんだ、自分たちもそれができるんだということの普及につながるので、しっかりと説明と普及に向けた行政側のご努力をお願いしたいというところですね。

あと、公募委員についての無作為抽出、これもここが初めてで、試行期間ということなんです。本当にお二方のご意見もすごく貴重ですし、本当にこれが各委員会に広がるのかどうか、継続性を持つのかどうかというのは、私たちがこれによっていろいろな検証なりチェックなり、お二方のご意見なりを聞きながら、やっぱりもっと広げていく必要がある、いや、もっとやり方を変えたほうがいい。今、坂爪さんがおっしゃったように、保育環境を整えればもっとそれは広がるんじゃないか。私も保育環境の問題については、もっとこだわったほうがいいのか、さらに深まる議論がここでできればいいかなと思います。

あと選考基準と結果の通知方法については、全く知らない人なんですけど、ここでいろいろ意見を述べていただいたので、また後日、今日はあまり時間もないので。それについては私が提案したことでもありますが、選考結果の方法、いただいたんですけど、順位と点数だけ書いてあったということで。これでもやはり以前よりも一歩進んだかなという認識は持ちます。これでいいのかというと、やっぱりこれではいけなくて、何が足りないかをもう一回みんなであのとき議論したことを思い出しながら、ほかの方たちと一緒にこの話についてしたいということなんです。

2番目は、すみません、今まで皆さん意見を言う場、述べる場の市民参加を議論、随分長い間していらっしやっただんですが。実は意見を言う場があっても、自分の意見が生かされる場というのがない。それは何によるのかというと、きちっと情報の共有と、前回、私が提案した議事録をつくる、きちっとそれを共有するという決定までのプロセスが不透明なために、言たって決まるのは庁内で決まるんだらうとか、市長が決定するんだらう、議会で決定するんだらうというような、結論に結びつける人が結構いらっしやる。最初から諦める方、言たって、それはアリバイづくりだと思われる方が多くて。そうじゃないんだよと言うんですが、やっぱりそれにはきちっと合意形成へのプロセスをつくりたい。

五島さんがおっしゃっていた職員型参加研修の中にワークショップというのが提案されていますけれども、私はそれを少しずつ進めれば、そちらへの道も広がるかなというふうに思いました。

3番目は、これは一番最初に示された25条、26条のところですが、私たちの一番大事な役割というのは、条例が適切に運用されているかどうかということなので、全てのいろいろな項目については、一応、それを念頭においてチェックが必要じゃないかということで、3番目に挙げました。以上です。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。

この2のところで「協働」という言葉を使っておられますね。

◎杉本委員 協働のあり方検討委員会から答申が提案されまして、その一番最後の条文のところに、非常に大事なことが書いてあって、行政と職員が協働でやるときには、お互いに役割分担を明確に責任と役割分担を明確にすることと書いてあるんですね。その役割と責任を明確にするには、かなり合意をしていかななくちゃいけない。お互いの役割をきちっとお互いが納得して進めるということについては、そこまで行くまでの合意が必要で、それがまだ、何て言うんですか、話し合いのプロセスがしっかりと形の上でとられてないんじゃないかということで、やっぱり協働をこれから進めていくには、合意形成という私たちがもっと、市民も職員も一緒に学んでいく場が必要なんじゃないかと思って、これを書きました。

その第一歩として、市民参加条例の施行規則にある議事録の取り方が非常に、ここではしっかりしているんですが、ほかの審議会では記録だけは取るんですが、議事録のないところがあって、何が決まったんだか、決まってないんだか、わからないような審議会が結構あるんじゃないかと思っているので、まず第一歩はそこからかなと思って提案したんです。これ、前回提案した内容なんですけれど。

◎西尾委員長 多分、具体的に進めていく中で、協働とは、どちらかということと実施過程についていうことが多いですね。参加のプロセスの議論というよりも。実は明日、三鷹市と大学の協働で「緑のボランティア」というものをやるんですけれども、もともと市がやっていたものを、市がつくったNPOに委託して、NPOと大学の間でやるんです。何年かやっているうちに、だんだん分担ということもわかってくる場所もあると思います。抽象的な言葉で議論し

ていると、協働の責任がどうかということもありますので、ご意見は、そういう形で具体的な局面で、ぜひ生かしていきたいと思えます。

◎杉本委員 前回出したのが非常に具体的な提案になっているので、もし、あれでしたら、一度それを見ていただいても。本当に具体的に提案してあります、これについて。これはあくまで、左側は理念として書いてあるので、中身はもっと具体的です。第何条の規則第何項をきちんと確認してチェックしてくださいということまで書き切れなかったの。今回はそこまで書かなくてもいいのかなと思いましたがけれども。

◎西尾委員長 はい、また改めて議論したいと思えます。ありがとうございました。

では、福井さん、お願いします。

◎福井委員 第24条の市民と市との日常的な協働を円滑にするということに対して、現状の縦割り窓口行政という格好でなく、もう少し市民が参加しやすい環境としては全方位型の窓口行政の運営ができる部署が必要じゃないかということで提案したいということです。

提案の中としては、専任職員の担当する、例えば市民参加推進課というような新設部署の設置も必要じゃないかと考えます。そうすると、現状の窓口行政に対して、もう少し、より一層、市民目線の立場から一元化されたような窓口行政として、市民が参加しやすい環境になっていくんじゃないかと思えます。そうすることによって、市民の協働意欲も増していくし、市民生活の満足アップにつながって、安心・安全のまちづくりに反映されるんじゃないかということです。

現状は、縦割り窓口行政ということで、専門的な話はそれぞれでいいんですけど、あくまでも市民が協働しようということに関しては、どこへ行ったら的確な回答を得られるかというのが、一般市民目線から見ると非常にまだ難しいんじゃないかと思えます。

現状、社会福祉協議会ということで福祉会館という場所に、2階には小金井ボランティア・市民活動センターということで、一応準備室という格好ではやっているんですけど、まだ一般市民には十二分に認知されているということはないと思えますし、またそこで相談するところでは、いろいろな専門的な知識で市民が満足するような協働事業に対しての回答は得られないということです。またそこも、窓口相談所としては承るんですけど、あくまでも活動というところのアプローチは現状、市民の参加団体が各部署に確認して行動している。しかもまた、その単年度では担当者が翌年度も継続していれば話はつながりやすいんですけど、たまたまその担当者が異動の時期になると、また一から翌年の窓口担当者に話さざるを得ないとかということで、引き継ぎ事項もまだ不十分な点もあったということの実例も踏まえまして、一カ所で何かにつけて、そういう一本化したところの窓口行政があれば自信がなく協働事業で相談に行った人も、プラスアルファのヒント的なものが逆に得られる面もあるということで、そういう新設部署を設置したらどうかというのが第1点目。

2点目は次のページなんですけれど、第29条の2の「補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする」ということで、補欠委員の条文に対する、この29条の2の加筆ということを提案

したいと思います。この傍線を引いているところが私の加筆の提案なんですけれど「委員の欠員が生じた場合は、遅延なく補充しなければならず」というところが加筆の場所で、あとは次の「補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする」ということです。意図するところは、速やかにというようなイメージの言葉が一切記載されていないということで、私もほかのところで会則とか携わったこともあるんですけど、やっぱりこの文章だけでは、補欠委員の任期は前任の残任期間ということで、例えば残任期間が1年以上あっても、ほっといたら、1年間、そのまま補欠委員がないという悪い例もあることはなきにしもあらずじゃないかということで、あくまでも速やかにという意味合いで、それを文章化したのがこの一番目の加筆ということが一つ目。

それとあと、補欠委員の公募案内ということに対しては、条文の参加条例の中に一切記載がないということで、例えば、その中の記載がない以前に、共通項目の内容の認識ということで、例えば補欠公募委員を選任するに当たって、前任者が、男が欠員した場合は男ということを入れて公募の案内をするのか、例えば年齢がたまたま40代の方が欠員した場合は、やはり公募案内の中に40代とか、そういう項目を入れるのか。今までの補欠委員の公募案内では、あくまでも公募委員2名とか公募委員1名を補充するような文章のみの補欠委員の公募ということでしか見た記憶がないんですけども、もう少し具体的に記載したほうがいいんじゃないかと考えます。

というのは、例えば今度無作為抽出ということで選ばれた方が、たまたまこの会議には2名おられるんですけど、その方がもしも欠員になった場合、そういう公募の中に無作為抽出で1名公募しますという案内も入れたりするのか、それとも勝手に行政窓口のほうで公募委員の無作為抽出をやって、その公募した人に対する案内で、結果的に無作為抽出によって選びましたという報告で名前を載せるのかというようなところ等、まだはっきりしていないというのが一つ目の補欠委員の公募案内の内容。

もう一つ、右の*印をつけたところが、公募選考、これは補欠委員じゃないんですけど、一部今年に関しても一市民から不満の声をいただいております。その内容としては、例えば公募委員5名を採用するところで、たまたまある委員会では、例えば1期の人が全員、そのメンバーどおりの顔ぶれで2期として再任されたという実例の委員会もあります。また、団体推薦ということで、例えば1名募集ということで募集して公募かけたんですけど、たまたまその内容の方はPTAの関係の方が欠員になって、その公募団体ということの推薦で任命された方は同じPTAつながりということで、全然、意欲的な団体つながりの委員が選ばれなかったということです。ほかの団体で公募された方からもやはり同じようなことで不満の意見をいただいたという実例があるということです。もう少し、公募の補欠及びそういう一般公募の場合、ある程度行政側として予定しているような心づもりがあるんだったら、もう少しオープンに知らしめたほうが、意欲をなくす人も少ないんじゃないかということで、その辺も加味しながら検討していただきたいということで提案しました。以上です。

◎西尾委員長 どうもありがとうございました。

後段のほうの今の運用はどうか。委員が欠けた例はありますか。条例を変えるのは少し時間がかかる話なんで、運用についてなんですけど、どうですか。

◎事務局 第4期で辞職された方がいらっしゃったのですが、そのときはちょうど提言を出し終わったところで、最後、残り1回という段階だったので追加募集は行わず、欠員のまま最後の会議を開催したということがありました。

◎西尾委員長 はい。まあ、運用で改善できるところもあるんだろうと思うんですね。特に書いてはないけれどもね。

◎福井委員 補欠委員とか、そういうところだけでもしっかり書かないと、行政じゃないところの団体のほうがしっかり補欠委員の募集など、しっかりまとめておられるところもありますから、その辺も検討いただければと思いますし。

◎西尾委員長 条例の改正いかににかかわらず、できるだけ穴のないように進めてもらいたいというふうに。

はい、五島委員のほうからお願いします。

◎五島委員 この会議の進め方なんですけど、前期も同じような提案をさせていただいたんですが。今ここの提案メモに挙がっているような議題、13もあって、今日の次第に今後の開催予定のところは6回開催とあって、6回だと全部で時間が12時間しかなくて、12時間でこの13のことをどうやって話し合うのかなと思うんです。状況に応じてオプションの会議の設定をしたらいいんじゃないかなということです。

それから、先ほど坂爪さんからもありましたが、もうちょっとざっくばらんに、例えばここを二つに分けちゃって、こっちのテーブルではこのことについてざっくばらんに話をして情報共有をしてという点で、最後に少し、それぞれのテーブルで話し合われたことを確認するみたいなことを間に入れていったほうがいいんじゃないかなというふうに思って、グループワークの実施という提案です。以上です。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。

前の期ではそれをされたわけですね。

◎五島委員 いえ、グループワークみたいなことはやってないです。オプションで、同じように議題が多すぎて、この形は変わらなかったんです。

◎西尾委員長 別に集まったという感じ。

◎五島委員 そうです。

◎西尾委員長 なるほどね。

議題がある程度固まったらそういうことができるだろうと思いますし。何ていうか、あんまり後じゃなくて早い段階でやったほうが、打ち解ける、お互いによくわかるということがあるだろうと思います。

◎五島委員 そう思いますね。

◎西尾委員長 私は、実は非常に賛成であります。工夫について、また後ほどご相談したいと思います。

じゃあ、田中さんどうぞ。

◎田中委員 1回しか出てなくて、ちょっとわからなかったんですけども、宿題を出されると、何か出さないと気が済まないようなところがありまして、もしかしたら本当に的外れかなと思って、随分悩んだんですけども。

私の周りには市民参加とか、ましてこの推進会議とかについて知っている人っていうのはほとんどいないんですね。どうしてこんなに関心を持ってないのかなと考えたんですけど、やっぱりホームページとか市報とかがかたくておもしろくなくて、目にとまらないのではないかと思ったのです。ちょっと赤羽さんと似ているところがあるんですけど、もっとわかりやすい、具体的で目にとまるような、それから募集をするときにも、もうちょっと目にとまるような工夫ができないかなと、そういう模索をしたらどうかということで出しました。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。媒介メッセージの伝達のあり方ですね。

これ、大事なことであり、また難しいことでもありますよね。役所が苦手なところですよ。そんなことを言ったら失礼かもしれないですけど。

じゃあ、伊藤さんのほうからご意見がありましたら。

◎伊藤委員 私どもは、言ってみれば、ここで話させていただくというよりも、本来は内部的な話なので、自分たちで調査をしたほうがいいのかもしいかなんですけども、とりあえず問題提起も含めまして、議題としていただければということです。

まず一つは、公募委員がない審議会もかなりありますので、どうしていないのかということについて調査をして、できれば公募委員がいていただくような審議会を増やしていきたいというのが12番です。

それから13番については、企画財政部長ということで、財政のことがありまして、皆様にも時間を割いて来ていただいておりますので、報酬なり謝礼なりということでお支払いはしているわけなんですけれども。現在1万円という形でお支払いしている部分について、もしできることであれば、減額をするような形でできないかということで検討していただければということになります。

◎西尾委員長 どのぐらいの減額でしょうか。

◎伊藤委員 そこはもう、ここの3期目か何かのときにも、やはり少しそういうお話が出まして、いや、やっぱり時間を割いて来ていて話をしている以上は当然いただけるというか、もらって当然だというふうなことで、一度、話はあることはあるんですけども、財政的な面で、申しわけないんですけども、検討いただければと。

◎西尾委員長 なるほど、わかりました。

どうもありがとうございます。

意外と皆さん多く出していただいて、私が思ったよりもたくさん出たという感じがですが。

川口さん、何かおありでしたらどうぞ。皆さん、一言ずついただいているので。

◎川口委員 なかなかこういう会議で提案するというふうな思考回路をしていませんで、自分で確かに思うことがあったんですけれども、言語化に至らなかったものですから、提案を提出するというまではいかなかったんですけれども。

この資料をいただいたときに、私の中でもやもや思っていたことは、これに近いかなということが2点ほどございましたので、意見を述べさせていただきます。

小金井は人材が非常に豊富で、いろんな経験とか技量を持っていらっしゃる方がいるというお話はよく伺うんですが。それがどこにいて、その人たちがそれをどう生かしたいと思っているのか、生かせるのかというのは、それこそ星空を見つめるみたいな形で、星が散らばっているみたいな感じでつかめないという、そういう何か漠然とした感じを持っていました。ですので、浅野副委員長の、地域のさまざまなつながりを支援するNPOなどへのヒアリング、つながりを知っている、人を知っているNPOがあるなら、そういうところが人材バンクではないけれども、そういうふうな形でやることができるかなということ。

それと、福井委員の全方位型窓口行政というのを拝見したときに、でも、行政に一つ窓口が増えると、人を増やさなきゃいけないくて人件費が増えるのかしらと思ったり。でも市全体を見渡す力はやっぱり行政が持っているのかなと思いながら、ただ、行政の方はやっぱり何年かで担当を異動なさるので、ボランティアのほうでもそれを担当する方の思考とか能力、興味で随分と感じが変わったりするので、やっぱり行政の方の窓口というのは、その人の、それこそ技量でいろいろ上がったたり下がったりするのかなと思ったり。

その点を、そういうものがあることで小金井のいろんな人を募集してというか、何かやりたいことがあったら、ここに申し込んでくださいみたいな形で集めておいて、公募なら公募、その方たちにも知らせることができるかなと思いましたが、これを拝見して。

あともう一つですが、伊藤委員の提案の委員報酬なんですけど、私も委員報酬と伺って、私、それだけないみたい、そんな能力ないみたいな感じで。ですので、約1年間で2,400万という額を見て、やっぱり市民が参加するのはとても大事だけれども2,400万って大きいなと思ったことがございました。減額提案とかまでは具体的には考えませんでしたので、びっくりしたというところです。以上です。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。

いや、お金の問題って、確かにもうこういう市民の集まりみたいなのはただだという考え方も一方ではありますけれども、世の中の相場の日当なんかがあるんじゃないかなと思いますね。どの市でもやっている。それから無作為抽出で三鷹などもやっていますけれども、それは日当という形で支払う。ちょっと額は明確ではないんですけど、たくさん何十人という形で、多いときは100人ぐらいですかね。裁判員制度と似ている考え方で、ほかにパートでもやればお金になるところを来てもらっているという考え方で日当を出したりということもありますね。世の中との相場との関係だと、ほかの自治体のことは知りませんが、それも一つの参考ではな

いかなと思いますね。

◎古畑委員 伊藤さんに伺いますけど、21あるというのは、大体この規模の市としては、多いような気がしてね、どうなんですか。21って書いてあるけど。

◎伊藤委員 それはですね、また前回の資料になるんですけども、資料の4ですね。資料4に今年の4月現在の審議会等の一覧というのが載ってまして、それが1番から49まで審議会があります。それで委員の定数、それから、そのうち公募がいるかどうかということで載っております。ゼロというのがこの中だと21あるということなので。ただ、専門的な審査をするような委員会についてはなかなか公募ということではなくて、弁護士さんとか会計士さんとか、そういう専門的な委員会もありますので、原則として公募を入れるということになっておりますので、どうしても入れられないのかどうかは確認をしてみる必要があると思うんですけども。できれば、増やせるものなら増やしたいということなので、検討していただきたいということを提案させていただきました。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。

私のほうからは、一番最初に出ているんですが、浅野さんのほうから出たのとちょっと似たところもあって、若者の市政参加をどう促進するかというのを、本気でやりたいと思っています。投票率がとにかく低い。それから、こういう委員会でも公募で、どれくらいまで入れるか難しいんですけども、若い世代は少ないと思いますね。

私、この11月末から12月の初めにイギリスのエクセターというところに行きました。エクセターには大学があって、人口10万人のうち1万人以上が学生で、学生というのは割と重要な住民なんです。学生は地域にお金を落としてくれる重要な人々だけれども、参加という意味ではやはり関心が低いんだそうです。4年間ぐらいそこにいるというのに、あまり政治にコミットしてない、提案をしたりということは少ないと計画担当の職員が言っていました。悪く言うわけではないですけども。

それから、私が会った若い世代の研究者は、助手レベルですけども、驚くべきことに、一度も地方選挙に行ったことがないというのが何人かいました。30歳ぐらいで一度もですね。イギリスの地方選挙って、投票率が3割ぐらいで、低いんです。それは若者でより顕著だというふうなことを言っていました。

これ、アメリカでもあることらしく、雇用が不安定になってくると、何か、参加どころじゃないみたいな空気が若い世代に割とあるようですね。

実は今日、私の学生がここに来ると言っていたんですが、直前にやっぱり行けませんと。小金井市民なのでぜひ聞きたいと言っていましたけれども、それどころじゃないということがあるようでした。

いろいろな原因も考えなくてはいいませんが、意向調査などを分析するとわかることがあると思います。しかし、いろいろ理由はあるんでも、何か仕掛けがあるのではないかなと思っています。イギリスでは、ブレアが始めた教育への重点的な投資の環として、若者議会というのを

つくった。ただ参加してくるというんじゃなく、特定の争点、 이슈ーといひますか論点を出して、例えは若者の遊び場とか、居場所づくりを議論させる。若者がたむろするのを嫌うわけですね、商店とかが。そこで、年を取ると聞こえないんだけど、若者に対して嫌な周波数の音を出して追っ払うというデバイスがあるんですよ。これをどうするかという特定の争点でやると、若者がユース・カウソシルという形で集まって議論をする。おもしろいことに、意見が一致しないんですね、いろいろな考え方がある。でもそれを、イギリスは首長ではなくて、議会中心ですから、議員さんと話して、それを本当に実現したといっただことがあります。

こういう参加を特定テーマでやる限り、どこかで本当に声が出てきたら、行政はそれを実現するという腹がないといけないので、市民参加推進会議は参加のやり方を決める、あとのことは、それは都市整備部だとか何とかというんだと、実は責任持ってやれないかもしれないですが。個人的には、やってみたいというふうに、この1、2年、思っています。

先週の土曜日に三鷹市の協働センターというところで市民中心でこの種の議論をやったんだそうですね。私は、行けなかったんですが、その話を聞き、どこの地域でも、国を越えても割とホットな話題なんだなというふうに思ひますね。

今日、複数の方から世代とか若年層とか、いろいろな言葉も出ていて、そういうことで心強い気もちよっとしたんですけれども、個人的にそういうことを思っている次第です。

一巡して、いろいろな意見があることを伺って、多分、2年間、話題には尽きないんじゃないかという気がしひます。

5分ばかり休憩して、今提案いただいたことから優先順位をつけて、どういうところから議論をしようか、後半でお話しできればと思ひます。

(休憩)

◎西尾委員長 それでは再開したいと思ひます。外は寒いですし、8時には終わりたいと思ひます。次回の日程、5分ぐらひかかるかもしれないですね。ということで、7時50分ぐらひまでには、今の皆さんからいただいた議題についての話を終えて、今杉本さんのほうから、意見・提案シートの扱ひについてご意見もありましたので、それにも触れたいというふうにも思ひます。7時50分ぐらひを目処に、これから自由討議という形でいきたいと思ひます。

大きな中身は、どういうことを議論するかというのがありますけど、どういうスタイルで行うのかというのがありますね。だから、これ以外の、何か集まったらどうかというふうな、みんなで集まるということもありますし、特定テーマで、その中の一部の人が集まる、ワークショップ、ワーキンググループ、グループワークというんですが、そういうこともあると思ひます。

それから、ヒアリングのアイデアが浅野さんのほうから出ておひまして、これはきわめて有力な進め方だろうと思ひますね。そういう参加ということについての豊かな経験を持っている人から直接お話を伺うというのは、きわめて有効で、こういう委員会の前半の段階ではいいアイデアではないかなと思ひます。

ということで進めていきたいと思いますが、最初に、全部で13ある提案について、伊藤さんも含めて事務局のほうからも、これについてはちょっと説明がありますみたいなことがあればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

窓口のことがありますね。いわゆるワンストップというふうに理解してもよろしいですか。

◎**福井委員** 要するに、例えば、ボランティアセンターという協働の窓口、行政ではなくて市から委託されている団体などご存じだと思うんですが、そこがやっているのすら認知されていないというのが現状だし、協働事業をやりたいと思っても、あくまでも行政的な、文書的な言葉は書類上あるにしても、一市民が協働しようと思っても、どこに行けばいいのかというところが、不明確です。小金井市の行政として窓口の課があれば、誰も彼も、その課があるということを利用して参加とか相談とかしやすいんじゃないか。そうすると、そこが一元化していれば、ある程度、その窓口に対する一団体の回答プラスアルファの回答も幅広く得られるんじゃないかということで、市民が参加しやすいということがあると思うんです。

◎**西尾委員長** ある意味では行政的なテーマでもあるんですけど、参加ということによって、参加しやすい、参加の条件という意味でもあるということですね。

◎**福井委員** 「活動拠点」という言葉とはイコールじゃないんじゃないかとは思って、あくまでも「協働」という言葉に対しての、要するに市民と市が日常的な協働を円滑にするためということ、この24条でうたわれていますよね。条文がありきで、実際、市民が活動する場合とか相談する場合の自治体の相談窓口以外にもいろいろな取り組み方ということもあると思うんですけど、どこに行けばいいかというものが、課としてあれば相談しやすいということですね。あくまでも協働事業に取り組むということですね。

◎**西尾委員長** 何かおありでしょうか。はい、どうぞ。

◎**事務局** 市民協働のあり方等検討委員会がありまして、以前その中で提言を受けています。今、福井委員からお話いただいた内容と似たような話なのかもしれないですけど。協働の推進に当たっての専門の担当部署を設置するという話が提言で出ているんですね。まだちょっと実現はしていないところはあるんですが。それと重複するイメージもあるので、そちらの動向等をまず注目をさせていただきたいなという思いはあります。

◎**五島委員** 僕は国立市民なんですけど、国立の同じような協働推進会議とかでも同じようなことを言ったことがあるんです。協働とか何とかというよりも、市民側からすると、例えば提案なり何なりしようとしたときに、どこに持っていったらいいのかわからない。下手なところに持っていくと、たらい回しになったりということがあったので。そうではなくて、窓を一つにしておくという、それは委員長がおっしゃられたワンストップと同じ意味かもしれませんが、そこに投げれば、そこが判断をして、中で振り分けてくれる、質問だったら質問がそこから返ってくると。

庁内からしても同じように、外側とつながっている窓だと。外側の情報がほしかったら、そこに行けば、市民側の情報がここから入ってくるみたいな、そういう窓みたいなものが、セク

ションかシステムかわかりませんが、あれば便利だなというのは言ったことがあるんですね。

ただ、それも多分、庁内の仕組みを変えなきゃいけなくなってくるので、なかなか行政的にはハードルの高い話かもしれませんけれども。ニーズに答えていくという意味では、それは多分すごくいい方法ではないかなというふうには思いますね。それは民間側、行政からすると外にあっても、もしかしたらいいのかもしれないんですけども。

◎西尾委員長 はい。ちょっと海外のことになりますが、シチズンズ・アドバイス・ビューロー、市民相談窓口というのがイギリス、オーストラリア等にあります。しがたい窓口なんですけど、後ろに山のようなパンフレットがあって、スタッフはボランティアなんですね。市役所の入り口の一角にあって、でもボランティアなんです。何か相談があれば、専門的なことはほとんど扱わないんだけど、どこに行けばよいですかとか、パンフレット渡すとか、そのことができるというのがありましたね。

市役所に入って総合受付ってありますか。あそこはどうですか、ちゃんとさばいてくださいますかね。私、自然保護なんかでいろいろ協力や活動したいんですがと言ったら、そういうのをばつと指示されますかね。

◎伊藤委員 今、第2庁舎の1階に総合受付がありますので、そこに行って、どういう用件だということを言っただけであれば、ひとまずは何課が担当ですということをご案内するというふうに思います。

先ほどの五島委員のお話なんですけれども、現在、市民協働課というふうなことで、協働を単独でやるといいますか、それを主にやるという課自体は、現在、小金井市役所の組織の中では持っていません。ただ、協働を所掌事務として扱うという課はあるんですけども、独立した形ではないということがございます。あと、協働をやるという場合、その窓口に行って振り分けるというのももちろん大事なんですけども、それぞれの職場、課でも、当然、限られた財源、人材の中では市だけでやるということは、今現在なかなかできませんので、それぞれの課が市民の方と一緒にやるという仕事もありますので、そこだと思える課に行ってくださいと相談をしていただくという方法もありますので、ルートとしては二つあるというふうに思っただいていいかとは思いますが。ただ、専担課という意味では、現時点ではないということがございます。

他市では、市民協働センターという形で、別の箱物を持って、そこに市役所の課があるというところもありますし、そうではなくてNPOさんがいて、そういう市民協働のことを一緒にやっているという例はあると思います。

◎西尾委員長 市民協働センターって確かにちょこちょこありますね。NPO何とかセンターとかですね。

さて、どうでしょうか。たくさん提案が出て、それを受けて、これはちょっとぜひ取り組んでみたいとか、そういう率直なご感想、ご意見でいいんですけども、そういうところからこれを扱っていきたいと思います。

◎浅野副委員長 これから2年間やっていく上で、今期の目玉になるような議題というのと、それからどの期でも必ずやらなければいけないルーティンワークになるような活動と両方あると思うんですね。每期必ずやったほうがいいなと私が思っていることが幾つか提案にも挙がっております。

一つは伊藤委員から出された公募委員ですね。置かれていないところの状況確認をやったりしたほうがいいんだらうなと思うんですね。前期の初めだったと思うんですが、近隣の同規模の市と比べて公募委員が置かれている委員会が多いのが少ないのかというデータが提出されまして、そのときはたしか小金井市は割と優秀というか、比較的公募委員を採用している委員会の数が多かったほうだったと思います。それが今もそうであり続けているのか、あるいはほかの市町村に見劣りするような状況に、もしかしたらなっているのか。そういった公募委員を置いているところと置いていないところを確認して、置いてないところはなぜなのかということは、やはり恒常的に確認しておいたほうがいいだらうなというふうに思います。

それから2点目が、杉本委員から出されている提案シートですね。これは前期に提言をした時点では、5つの審議会、委員会で採用されているというふうに、たしか報告されていたと思うんですが、それはさらに広がっているのかとか、いないのかとか、そういうことを随時報告していただけるといいかなというふうに思います。

それから3点目、これが最後ですが、これも杉本委員から出されております公募委員の選考のやり方の問題ですね。これも前期、我々が随分苦勞をして提言を出し、とりあえずこの市民参加推進会議では新しいパターンにもしてみました。ほかの委員会でそれを取り入れていただいているのかどうかということは、どこかでご報告いただいたほうがいいかなと思いますね。

その辺は情報提供と共有ということで、例えば今回、今は期の初めですよ。もう一回、期の中間、ですから来年の10月でしょうか、その時点での状況をもう一回ご報告いただくとかという形で、我々としても状況を把握しておいたほうがいいかなと思います。

そのレギュラーワークというか、ルーティンワークと並行する形で、もう一つ今期の目玉になるようなものを選んでいくという形になるのかなと思いますね。

◎西尾委員長 どうも、整理をありがとうございます。

ルーティンであるわけですか。

◎浅野副委員長 每期確認したほうが。

◎西尾委員長 それを忘れるわけにはいかないわけですね。

じゃあこれは、もし今、何かあれば言っていただきますが、また改めて準備をしていただいて、適宜ご報告していただくという感じでしょうかね。

◎事務局 そうですね、前期、ご提言いただいた部分については、我々も宿題として承っておりますので、なかなか提言を受けて、すぐに全て回答するというのは難しいんですが、準備に取り組んでおりますので、一定のお時間をいただければお答えできるかなというふうに思っております。

また、今、浅野先生がおっしゃっていた小金井市の審議会の公募の市民委員、昨年度の時点で26市中5位の公募委員の割合の結果があったんですけども、そういったデータについても、適宜整理をしていっていますので、それについても、毎回、毎回調査するということでは、もちろんないので、必要な時期にお知らせしていただければ調査はしたいと思います。

◎西尾委員長 はい、どうもありがとうございます。

目玉は何だろうか。せいぜい二つぐらいが一般的なんだろうと思います。それは後半の後半で固めていくとしまして。

皆さん、意見がいろいろ出た中で、ご感想などでもいいんですが、どうでしょうか。

◎杉本委員 そうするとその12番の伊藤委員がおっしゃった、公募委員がどのぐらい審議会に反映されているというのは数字が出ているわけですね。これを広げるというのも、その中に私たちが提案した後に、そんなに時間のかかることではないような気がするんです。審議会の公募委員を増やしていくということについての是非を、時間がかかるような内容ではないような気がするんですが。

あと幾つでしたっけ、49の審議会のうち21の審議会というと、半分近く。それがなぜ置かないかどうか、あるいはどの審議会が置かれていないのかというようなことを調査して、より広く公募委員を置くということを審議することを……。

◎伊藤委員 よろしいですか。

◎西尾委員長 どうぞ。

◎伊藤委員 本来は庁内の審議会ですから、21ある審議会にどうして公募委員がいないのかという理由をまず訪ねます。それで、その理由について、やっぱりここは専門的な審査をする委員会だから、これは公募委員はいなくていいんだということが一覧表になって皆様の中で認知されれば、21がどんどん減ってくるわけで。やっぱりこの理由だと納得できなくて公募委員を入れたほうがいいというものが、もし皆様の話の中で出てくれば、そこは私どものほうで説得するといいますか、そういう形ができると思いますので、12番については、当然理由を聞くということをさせていただいて、一覧表にまとめた形で、なるべく早い段階でお出しはできると思います。

それで、浅野委員がおっしゃった部分については、ほかの市との公募委員の比率みたいなものですから、それは1年目、中間のところあたりで、もし調査できればお知らせできるというふうに思います。

ですから、杉本委員が言われた部分については、至急、庁内の話ですから、やっていければというふうに思います。

◎事務局 伊藤委員のお話のあった、附属機関等の公募委員の設置状況につきましては、前回、ご提出さしあげた資料の4をごらんいただきますと、これが49の附属機関の一覧になるわけですが。少し表が細かくなったところ、定数というところがございまして、委員の数と内公募

という数が載っております。ここの内公募の数がゼロというところが公募委員がいない委員会・審議会という形になってまいります。

こちらのほうにつきましては、例えば一番上の指定管理者選定委員会というのは、企業の経営状態とかを判断しながら指定管理者に選定するか否かというのを、会計士さんや中小企業診断士さんが集まって専門的に議論していただく委員会なので公募がいませんとか。その下の個人情報保護審査会というのは、その名のとおり個人情報を扱うものなので、これも法律家の方が集まっていらっしゃるんですけども、公募はしませんよという形で、理由はあると思うんですけどもそういう形で、こちらのほうで公募の数が少ない多いということはわかるようになっていくということでございます。

それで、総じて2年前の調査では、小金井市は26市中5番目に公募委員の割合が多い市であったということでした。以上です。

◎西尾委員長 やっぱこういう委員会が働きかけることの効果は出ているんでしょうね、そういう順位に。

考えてみると、私の出ているもので公募がないものって、今まで幾つもあったなと思います。その審議会なり審査会とかの性格と文化のようなものもあるかもしれないですね。そんなことは、その委員会の事務局も考えたことがないというふうなところもあるんだろうと思います。しかし、原則公募ということによって考えて、それが実現するところも増えてくるだろうと想像します。

そのほかどうでしょうか、どんなことでも結構です。この4ページの提案。はい、どうぞ。

◎五島委員 休憩前に委員長がおっしゃられた若者の参加をと、浅野さんもおっしゃっていますが。わかりやすくイベントといいますか、どういうイベントをやれば若者が参加したくなるかというようなことを、それこそ提案していくワーキングみたいな形式で、いろいろどんどんアイデアを出して行って、ここの委員会が主催して、そういうイベントを2カ年の間にやるというようなことをしたらいいんじゃないかなというふうに今、思いました。

◎西尾委員長 どうもありがとうございました。

この委員会という性格のものって、大体こういう感じだと思うんですね。イベントをやるといのは、事務局とも相談しないといけないですが。ここは提案する、それをどこかが実践するとしても、ちょっとでも実践の一部でもあるようなものができる、手ごたえを確認することができるかなと思います。非常に漠然としているんですけども。

いずれにしても、若者を集めて参加しませんかでは、ほとんど来ないと思います。あり得ないですね、どこの国でも。やっぱりイシューがあって初めて食いついてくるんですね。例えば武蔵野プレイスという図書館について言うと、あれは若者の居場所づくりで、40年がかりでつくったわけですね。

そういうふうなことで、三鷹も始まったばかりなんで、その様子も聞いてみたいと思います。

◎杉本委員 さっき西尾委員長が特定のテーマっておっしゃいましたよね。私は多分若者が参加しようと思うのは、身近な自分の具体的な活動と直結したことでと市政と関連づけているものに、多分興味を示すと思うんです。

例えば、今ストリート(パフォーマンス)は許可制でないとできないようになってますよね。東京都はストリートのために場所を設定してつくったんですよね。それをつくる、どこの場所にするかということは、誰が参加したのかわからないんですけれど。多分西尾さんがおっしゃっているのは、直結した若者がこうしたい、ああしたいということの具体的なテーマをもっと積極的に若者に直接、例えばインターネットやなんかに向けて発信して、市政やまちづくりに参加を促すようなことだと参加しやすいのではないかというふうにおっしゃったように聞こえたんですけれども、それが小金井にはない。

◎西尾委員長 本当に私も知恵が明確にあって、こうやって提案するわけではなくて、例えばとかという感じなんです。自転車問題とか、自転車の交通のルールであるとか、私の大学で大問題なんです。それから、イギリスでは都市計画の最大の課題は自動車問題なんだそうですね。古都みたいな古い街なので、中心部からどうやって車を締め出すかというのが大きなテーマで、プランニングでも非常に大きな 이슈になっています。それを聞いたら日本では自転車がそれに相当するかもしれないというようなことも、駅前関係でもありまして。例えばでいうとそういうところなんです。

漠然と参加の仕方というのでは、ブレイクスルーしないといいますか、進めにくいのではないかなというようなものが実感としてありますね。

◎杉本委員 私はごみゼロ化推進会議に今所属しています。そこでは、昼間、ご高齢の方は参加できるんですが、けれども若い人たちは仕事を持っておられるので、結局こういう形に夜になるんですが、ごみに関係のある方たちのご高齢の方でほとんど決められるので、ごみ関連に関しては、若い人たちは参加したくてもできない状況があります。そういう時間差や、あるいは仕事を持っているか持っていないかとかというところを、どう調整するのかによって、市政の参加への窓口というのが広がるか、広がらないかって、キーポイントになるところじゃないかという気がするんです。

◎西尾委員長 そうですね。

余談で恐縮なんですけど、オーストラリアで、例えば山火事消火というボランティアに、数百人が参加するそうで、それはみんな若者なんだそうですね。すごいですねと言ったら、ちょっとした手袋が支給されるとか、そういう危機的な状態で協力すると連帯感が生じて、彼女、彼氏をつくるために来ているのも相当いるとかですね。でも、どんな不純な動機でも、とにかく人を集めることが大事だというふうに、その事務局の方が言っていました。

若者の気持ちはどこら辺にあるかというのをちゃんと把握しないと、空振りに終わる可能性があるのかなと思います。時間もそうですね。

◎伊藤委員 浅野委員がおっしゃった今期の目玉ということで、先ほども先生のほうからお話

があったと思うんですけども、委員長の若者、それから副委員長の若者、あるいは赤羽委員の世代間の交流、あと坂爪委員の母親・父親、子供がいるお父さん・お母さんというところも、やっぱり若者という範疇に入りますので、そういう意味では、今回、2年かけてやる目玉としては、市民参加という部分で、若者の参加をどういうふうにというところをやったらいかがかなと、私も思いました。

◎西尾委員長 はい。そういうふうにサポートしていただくとありがたいという思いと同時に、ちょっと自分が委員長をやっているんで、強引でなければいいかなというふうなことも思います。ただ、どんな若者に関することでも、全市民とも関係するというあたりは大事だろうと思うんですね。若者だけに特化してやると、やや特殊かなと思うので、若者を中心だけでも、市民全体にも関係する、そういうふうな設定にすることが大事かなと思います。

◎杉本委員 割と広いですね。高校生ぐらいから考えていいですか、頭の中は。中・高生っていうところから、線引きはなくて。

◎西尾委員長 小金井で18歳以上というのは、何か18歳以上ですか。

◎伊藤委員 公募委員を募集するときも18歳以上です。

◎西尾委員長 そういう意味で選挙権とは違う形で設定されていますし、公募委員も。

◎事務局 公募委員は18歳以上という規定もありますし、ほかに市民投票が行われた際には、その投票権は18歳以上ということがあって、一つの規定ではないんですけども、小金井として市政に参加していただくというときに、18歳というのが基準に今はなっているということです。

◎西尾委員長 18歳というと、もう高校卒業する年ですが、高校生ぐらいは含めてもいいのではないかなと思います。それから、若者の範囲は20代、30代の前半とかも若いのではないのでしょうか、高齢化社会の中で。気持ちでいうと、私も若者に入りたいですけど。

◎杉本委員 この中に保育環境の整備も入りますよね。

◎西尾委員長 そうですね、そう思います。

◎杉本委員 坂爪さんのご意見もこの中に。

◎西尾委員長 子供がいるって、60になっても子供はいるんですけども。ここでの意味は、どちらかという子育てが大変な世代だという意味だとすると、40ぐらいまでが入りますかね。

◎浅野副委員長 今、杉本委員がおっしゃられたように、若者という、かなり幅が広いんですよ。それで、子育て世代、小さい子供がいる年齢層の方々は恐らく、委員長がおっしゃるように 이슈をたくさん持っていると思うんですね。例えば、先ほどのパブリックコメントの実施状況を見ても、学校給食に対するパブコメがすごく多くて、あれは恐らく親御さんたちが書いていると思うんです。そうでもないんですか。

◎事務局 そうです。

◎浅野副委員長 なので、あれもそうですけれども、放射線の問題で説明会をやったときも、

お母さん方がたくさん集まられたということのを伺ってますので。 이슈をまず持っている、そこはいいと思うんです。ここは割と取りかかりやすいというか。もっと下の、10代とか20代の若い人たちは小金井市の場合、何かそういう 이슈ってあるんですか。私の幾つか見た事例だと、駅前でスケートボードをやらせてくれないので怒っていた若者を市が取り込むみたいな感じの実践面もあるみたいですけど。そういう若者の市に対してホットな要望みたいなものというのは、何か今あるんですかね。あまりぱっとは思いつかないんですが。

◎事務局 そうですね、以前、中学生の子ども議会をやっていたりしたんですけども。

◎杉本委員 子ども議会って何回かやっていますよね。

◎浅野副委員長 数年前にやった話を聞いたことがあるんですけども。

◎杉本委員 何回か聞いた、そんなに昔じゃなく。

◎事務局 最近やってなかったと思うんですけど。子どもたち、学校のスケジュールがかなり厳しかったんですね。なかなかそっちのほうに時間が取れないとかって話が出てたような気もするんですけど、申しわけないんですけど、はっきりした理由はわからないんですけども。

◎浅野副委員長 もし、市と若者の間に対立が起こっていれば、それはいい 이슈になるなと思ったんですが。例えば、部活の練習を公園でやっているとめられたとか。カラオケで吹奏楽の部員たちが練習をやっていて叱られて追い出されたとか。何かそういうトラブルがあると、それが 이슈のきっかけになるなとか思ったんですが。

もし、そういうものが見つかりにくければ、やっぱり子育て世代の、 이슈のを見つけやすいところからまず始めるのがいいのかなという印象を私は持ちました。

◎西尾委員長 議事録に残るので、言葉を特定する必要があるんです。若者、若年層、それから若い世代とか、子育て世代とか、何か、そんなところをとりあえずざっくり含めてということでしょうね。若い世代というぐらいですかね、ちょっと広めの。

◎杉本委員 たしかに、浅野さんがおっしゃったように、3.11直後は若い子育ての人たち、お母さんたちって、傍聴席が結構いっぱい。陳情・請願なんかは委員会で意見陳述ができるんですけど、もう若いお母さんたちがそういうのをどんどんおやりになった。メールの交換もすごいですね。今でも続いていますけれど。

◎西尾委員長 メールとかいろいろな新しい媒体による力というんですかね。でも、きっかけとかいろいろとありますね。

◎杉本委員 そういう意味では田中委員のおっしゃった裏側の、媒体やメッセージ等の伝達手段を模索すると書いてくださったんですが、小金井のホームページから市政にアクセスしようとしても、ほかの自治体より非常に困難だということのを何回も聞いているんです。若い人たちは特にインターネットを使用する機会が多いので、むしろそういうところも同時に、これから私たち審議するんでしょうけど、それも一緒に、インターネットがどうなっているのかということも、ほかの自治体と比べて使いやすいのか、使いにくいのか、議事録を見ようとしたときにすぐ取れるのかどうかということのも、ちょっと検証して。どこに聞けばいいのかわからないん

ですけど、それも入れていただければ。

◎西尾委員長 いろいろもう、今日は行政に対するいろんな課題が。

◎事務局 今、一つ思い出したんですけど、対立したというところまではいかないんですけど、武蔵小金井駅前の市民交流センターという建物の中に今スペースNといって若者たち、学生さんが勉強しているスペースがあるんです。そこは、本来はああいう使い方ではなくて、もうちょっと多目的に使える、何か目的を持って違う使い方をしようかなというのを検討した時期があったんです。検討する前は今と同じような形で自由に使っていいよという感じでした。検討したところ、市内でああいう学習をするような場所というのは貴重だから、学習をするような場所として使いたいという要望が若者からもあって。今は多目的ということで勉強する時間あれば、何か展示とかをすることもできるんですけど、そういう形で決着をしたようなことはありました。

◎西尾委員長 なるほどね。やっぱりこういうことをやるのには、構想も大事ですが、ファクトとして、今までどういうことが行われたか、現在はどうかとか、どういう問題があるかとかも、ぜひちょっと準備していただければと思います。

◎古畑委員 西尾さん、交流センターの利用方法って、どういうものがあるんですか。さっきの武蔵野プレイスなんか非常によいですね。

◎西尾委員長 あれはなかなかのものです。まねできないと思います、普通は。

◎古畑委員 交流センターにああいう機能は取り入れるわけにはいきませんが。やっぱり図書館とか地域に偏るから、交流センターというのは小金井のセンターですからね。何かああいうところにああいったような、武蔵野のあそこまでいかないにしても、若者世代が何か集まるような意味で場を提供してあげないとね、なかなか難しいんじゃないですか。

◎西尾委員長 武蔵野プレイスの一つのユニークなところは、図書館だけでも騒音が許されていることなんですね。うるさいんですよ。

◎古畑委員 そうですね。

◎西尾委員長 図書館なのに中心がカフェですからね。ガーってミルの音とか皿を洗うガチャガチャした音とか。子供が走り回りはしないけど。

◎古畑委員 地下なんか行ったら、もううるさいぐらいですよ。

◎西尾委員長 そうです。サッカーゲームなんかもあるんです。これまでの常識からいうと、とんでもない図書館なんですよ。でも、小さな子供を連れてお母さんが行きにくかった図書館に気軽に行けるようになったというのは、革命的なことですね。地下2階が若者スペースで。

◎古畑委員 そうそう。地下は若者スペースだね。

◎西尾委員長 武蔵野プレイスを小金井につくるようには、ちょっと私は提案しませんけれども、ルールの見直しも含めていろいろあり得ると思いますね。

◎古畑委員 だから、やっぱり一つの場がほしいですね。

◎西尾委員長 実はそうですね。

いろいろ白熱してきたんですが、あと数分で話をまとめていきたいと思います。

浅野さんが言われたように、ルーティンとして今の条例の実施がきちんとされている報告が、ずっと普段に話題にしながら、これは事務局のほうから報告も適宜、あまり極端な負担にならない程度に、しかしコンスタントにレポートしていただいて意見を言っていきたい。

もう一つは、とりあえずですけれども、若い世代にどんなふうに参加が、あるいは協働も含めてですね、高まっているかということについての検討を進めたいというところでもよろしいでしょうかね。

それ以外に、今日、いろんなご提案をいただいているので、途中でまた、このことも関連して出てくるということであれば、またそれも扱いたいと思います。

もう一つは、二つあるんですが、次回ヒアリングをやるかどうかですね。ここで、だれに対してやるということを決める時間はちょっとないんですが、どうでしょうかね、何かそういう活動、子育て世代でもいいんですけれども、されているような方から話を、二、三十分ぐらい聞いてもいいですかね。そういうご提案があるんですが、いかがでしょうか。もっと先でもいいとか。

◎福井委員 先ほど、2月以降なりの議題として話をしていこうかということで、浅野委員のほうから三つ提案をされたから、もう少しヒアリングという前に、まずは今日の議題の資料2-1というものをいただいているし、その説明も時間内に終わらなかった。今日は進め方として詳細の各論のほうに走り切ったようなイメージの進め方をすると、もうあっと言う間に1年たっちゃうような回数しかないものですから。議題を決めて、じゃあ次はヒアリングというんじゃなくて、それをもうちょっと煮詰めて、1番目にどの議題からやっていこうとか、ある程度、そういう大きな方向性を決めないと回数があって進まないと思うんですよね。ヒアリングは例えばワーキングの中で取り入れるとかという方法は、この回数以外にもする機会はあると思うんですよ。だから次回としてはまだ早いかなと思います。

◎杉本委員 一つ提案ですけれども、例えばこれ、ヒアリングといっても何をどう聞き取るのかというフォーマットが必要ですよね。まず、そのたたき台になるフォーマット、例えば浅野さんから提案していただいて、ここでたたき。ここで聞き取るんじゃなくて、それを時間もないので皆さんの、私にも20代から30代の子供が3人いるので、持って返って直にじっくり中身を聞く。結局、数を挙げることよりも、浅野さんの考えておられるヒアリングというのは、しっかり深く聞き取ってするやり方ですよね。数を挙げた統計的なものじゃないと思うので、それはここで1人の人を呼んで聞き取るということではなくて、その調査票に基づいて皆さんが何人聞き取れるのかわかりませんが、それを身近な人と話しながら聞き取って、持ち寄ってここで検討するという形のほうが時間の節約にもなるんじゃないかなと思うんですけど、いかがですか、浅野さん。

◎浅野副委員長 私も実はそこまで詰めて考えてなかったんですけれども。

◎杉本委員 ヒアリングならばですけれども。

◎浅野副委員長 ヒアリングをするために、まずフォーマットが確定していないというのはそのとおりでと思いますので、その準備が必要だと思います、確かに。何を聞くかということと、誰に聞くかということのグランドデザインをまずは一旦固める必要がありますので、そこでちょっと時間がかかるかと思います。どこで時間をかけて、実際の会議をどう使うかというのは、これは時間の配分の問題なので、また相談だと思いますけれども。例えば、次回の会議ではその調査の設計というかデザインについて議論をして、実際のヒアリングは、例えばその次に回すか、あるいは中間でワーキンググループを1回持って、そこでやるとか、いろんな考え方ができると思います。ただ、事前準備が必要だというのは、そのとおりでと思います。

◎西尾委員長 はい。

◎浅野副委員長 あともう1点、ニーズを酌み取りやすいということであると、やはり若者、10代から30代まで全部というよりは、恐らく子育て中の人のほうが話を聞きやすいということと、それからそういう方をよく知っている、いってみれば関係のハブになっているような方に話を聞くのがいいかなと個人的には思っています。例えば子育て支援をやっている団体の方とか、そういう方に聞くのがいいかなというふうに思っています。直接子育て中の方を紹介していただいて聞くというのも、もちろんありかと思いますが、実情をよく知っている団体の方に伺うのがいいかなと個人的には思います。その場合もやっぱり質問の仕方とか、どういう種類の活動をしている方に伺うほうがいいのか、それは事前にかなり詰めて考えなければいけないと思います。

プラス、もう一つ、今回提案にあって、これすごくおもしろいなと思ったのは、異世代間の交流の話なんですね。これは前期の提言をつくる際に資料を作成し、その資料の中で少しだけ私も調べてみたんですね。例えば港区芝の家というところとか、柏市の地縁のたまごとか、そういう市とNPOが協働して多世代交流の場をつくっていくという試みって、ちょっと出てきているんですね、最近。だから、もし小金井市内でそういう活動をしているところがあるんだったら、それはお話を伺うという手もあるかなと思います。

◎西尾委員長 今、候補も出てないので、誰に聞くとか、どういう団体とか。もう少し先にして、次回はこのテーマで、もうちょっと事実も事務局からできるだけ出していただいて、皆さんもちょっと考えていただいて進めたいと思います。そういう感じでよろしいでしょうか。

◎浅野副委員長 もう1点。質問というカリクエストというか、よくわからないんですが。

審議会の中に、今回の議題と関係のありそうな審議会がいっぱいあると思うんですね。私が直接関係あると思うのは男女平等推進審議会と青少年問題協議会、この二つが、特に男女平等のほうは、たしか行動計画を策定したとかしないとかっていう話がこの間ありましたよね。それでこっちとかかわる部分があったりするんじゃないかなというふうに思っています。なので、こちらのほうで市民参加について、もし何か言われていることがあれば、ちょっと確認をさせていただけると。行動計画は確かウェブサイトで公開されていないんですね。議事録は出てたと思うんですけど。

◎事務局 昨年度末に策定したので、公開されていると思います。

◎浅野副委員長 昨年度なんですね。わかりました、後で確認します。

◎西尾委員長 もう一つがワーキンググループをどうするかということがあって、2月後半になるとすると、それまでに新年のあたりで何かやってもいいかもしれません。これは大変恐縮ですが、全部終わった後に、ちょっとご相談させていただいてよろしいでしょうか。一応、この委員会とは別ということになりますので。

あと杉本さんから意見・提案シートの扱いについて、ちょっと議論をしたいという意見があります。恐縮ですが、これ、次回に回してよろしいでしょうか。

◎杉本委員 はい、構いません。

◎西尾委員長 一応、議事録の裏に意見・提案シートというものの扱いについて簡単な要約があり、それで皆さんごらんになっていると思います。私は進行の優先順位として、やっぱり委員の提案を議論するのが先だと思ひまして。提案シートのことを受けて非常に重要だと思われる、それは委員としてやっていただければ、それを無視されることはないと思いますので、私はそれを軽視するつもりは全然ありません。今日は、これから進めるテーマが中心の議題だったので、次回で扱うということによろしいでしょうか。

◎杉本委員 ですから、これをそのまま扱うという提案ではなくて、どう扱うかということですよ。だから、委員がかわりにこれを読んで、このところを今日議題に10分でも20分でもちょっと時間を割いてほしいとか、そういうことが提案できるかどうか、そういうような話だと思います。

◎西尾委員長 なるほど、いいと思います。私も賛成であるというのは、確かにそうだというふうに思っているんですけども。

◎杉本委員 これ、事前に配られるわけですよ。だから、前回のこういう提案シートがありましたと事務局から配られてきますよね、2カ月。それを一応皆さん目を通して行って、もしあれば、こういうことをちょっと話題にしたいけれどということを事務局に相談するという形をとればいいのかと思いました。

◎西尾委員長 いいと思います。

◎杉本委員 短い時間の枠の中でお時間をいただくわけですから、取り上げるかどうかは全く100%は期待していませんけれども。でも、少しずつやっていきたいと思ひますけれども、提案シートが活かされるような方向にもっていききたいと思ひています。

◎西尾委員長 どうもありがとうございました。

それではこれ、議事次第で休憩をするということが書いてあるんですけども、これは日程調整のときの休憩ですね。

◎事務局 はい、議事録を取らない時間です。

◎西尾委員長 では、議事録はちょっと止めておいていただいて。

(休憩)

◎西尾委員長 では、議事録始めてください。

◎浅野副委員長 宿題を、次回何か議論をするというたたき台がないといけないと思うんですね。だから、私も自分として、こういうのを聞きたいとか出すつもりですけども、一応大きな方向性が今日何となく見えてきたと思いますので、その方向で委員の皆さんがこういうニーズがあるんじゃないかとか、こういう方法が想定されるんじゃないかとか、あるいはこういう人に私は聞きたいとか、それぞれアイデアを持ち寄っていただいたほうが話しやすいんじゃないでしょうか。

◎西尾委員長 そうですね。何か資料からファクトを出してもらっても結構ですし、自分の経験から語ってくださっても結構ですし、ヒアリングをするならその候補でも結構ですし。それから他市の事例とかですね、海外のケースとかも含めて。

◎事務局 我々のほうで近隣市の事例なんかはちょっと調べてみたいなと思います。

◎西尾委員長 では、そういう宿題を各自、どういう側面でも結構ですので、少し用意していただく。今回は提案シートは要らないけども、メモでも何でも、思いついたことがあったら送っていただければ、多少進行の役に立つかもしれませんので。そういうメモなどを原稿化できれば、いただければ幸いです。

では、そういうことでよろしいでしょうか。

若干過ぎましたけれども、市民参加推進会議の今年の会合はこれで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

(午後8時07分閉会)